

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第31回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	2,600m ³ /sの流出量を前提にするということに私は、納得がいきません。2,600m ³ /sを目安とするならば、我々が考えてきた戦後最大の雨量、実際の雨量で計算すると2,400m ³ /sでいいのではないかとこの気持ちはあります。2,600m ³ /sの根拠となつたいろいろな算出法の中で、流出モデルによって1,900m ³ /sから2,900m ³ /sの範囲に入っているのが妥当という根拠を拝聴しました。そういう意味では、2,400m ³ /sも範囲に入っています。	基本方針の2,600m ³ /s(天神橋)はあくまでも目安として、「戦後最大の降雨及び実績洪水」で求めた2,400m ³ /sの方がいいのではないかと	3101
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	流量の精度というか、今までの観測データがもっと充実してくれば、実際どれくらい川の水位が上がる確率があるのか、どれくらいの流量が本当に出るのかというところで確率評価すればいいと思います。残念ながら、昔の観測データは圧倒的に雨のデータの方が歴史がありますし、精度も高い。ということで、雨のところで確率評価をして、それが降ったときにどれくらい川に水が出てくるかというところにモデル化、ワンクッション入っているというのが現状の技術で、ある意味、限界のところがあります。けれども、それが一番精度が高いであろうということであつたという方法がとられているのだらうと思います。	蓄積している観測データは、流量データより雨量データの方が充実しており、現時点では雨量確率による評価の方が精度が高いと思われる。また、流量確率による検証では、福井豪雨のデータも含めて検証の方がいい。	3102
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	基本方針というものが必ず守らなければいけないものであるならば、この流域委員会が開催される前に150年とか2,600m ³ /sという今回の方針が出ていたはずだと思ふんです。基本方針を前提にすることは、平成9年に決まっていたわけですから、流域委員会の前にそれを出す余裕が十分あつたはずなんです。それをしないで、昨年10月から12月にかけての2カ月でその方針を決めたということは、順序が逆です。だから、150年をベースにして2,600m ³ /sを出したという方式を必ず守らなければいけないものでないというふうには、私は経緯から見て理解しました。	基本方針の2,600m ³ /sを将来目標とするならば、この流域委員会が開催される前にしっかりと提示しておくべきではなかったのか?	3103
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	社会経済的なこととか、あるいは現在の国のお金の問題とかも含めまして、それはもちろん、安全レベルを上げれば上げるほどいいのはわかっているんだけど、実際には懐との関係もありますから、そこら辺で我々は、ある程度これが一番いいだろうということで議論してきたわけです。むだな予算を使わないで、できるだけ将来を見越した中で、将来の工事計画あるいは治水計画、環境計画が、うまくスムーズにそこにマッチングできるような形で我々は検討してきたはずだと思つております。	治水安全度はできるだけ上げる方がいいが、経済的な拘束もある。河川整備計画は、経済性や基本方針を見据えながら作成することが重要である。	3104
第31回流域委員会				地域との連携 (住民意見聴取)	これからどんな計画が行われようとしているのか、そういうこともこれからの公聴会の中で、一般にはダムだけの話ではないということで、全体的な構想がわかると、いろいろ話に参加しやすいと思つています。	住民へ説明する際は、足羽川ダムの話だけではなく、将来の全体的な計画もわかるように説明して欲しい。	3105
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	今日お話を伺っていて一つ思つたのは、我々の委員会の前の委員会、たしかあのかの委員会の構想は、1/150だつたと思ふんです。そのときは天神橋でどうだつたのか。どれだけの流量のデータだつたのか。もしそれがあつたら、教えてほしいなと思つています。	ダム建設事業審議委員会で検討していた天神橋地点の目標流量は?	3106
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	4川導水のうちの3川は次期河川整備計画という位置づけになっておりますが、少なくとも部子川の部分の本体は、4川導水でつくっておかないと、これを1川導水の規模でつくっておきますと、あと4川導水の場合にその規模では対応できなくなるわけですね。そういう意味で、本体プラス1川導水というのは、将来の変動がどのようになるかという部分の、ある程度リスクのヘッジになるのかなと私は認識しております。	基本方針では、将来的な気候変動も想定して決めることが重要である。今回の基本方針を見据えた「ダム本体+1川導水」の整備は、気候変動に対して危険回避につながると考えられる。	3107
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	福井県の県都の福井市、足羽川下流域に今現在ある資産を守るために、150年に1度という治水のダムをつくるわけですが、現状としては、福井県の県都の資産をどういう形で守っていくかというマネジメントが必要なわけで、そのためにダムに幾らお金をかけることができるかという、そういう部分の議論が本来はもっと活発になされないといけない。そういう議論は、本来、もう少し前の段階でなされてははずなんですけれども、そのあたりが飛び飛びになって現在に至っているのかなというふうにおもつています。	ダム事業費については、ダムを整備する前に現状の足羽川下流の資産をどう守るかのマネジメントが必要であり、その結果から考えていくことが重要である。	3108
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	戦後最大ということで、現実に起きたことでもってやってきたんですが、これからの将来を見据えた上で、2,400m ³ /sで本当に大丈夫なのかという漠然とした不安があるんです。たしか、福井豪雨が起る前に我々が戦後最大というシミュレーションで考えていた数字は2,100m ³ /sぐらいの数字じゃなかったか。それが、福井豪雨が起きてきたことによって2,400m ³ /sにはね上がった。だから、もっと厳密に戦後最大として計算していく中でも、数字は日々ぶれてくるんだらうなと。	目標流量の値は戦後最大規模の洪水が発生すれば逐次見直ししていく必要がある。よって、目標流量の設定は慎重に決めていくべき。	3109
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	決して今言われたような後追いという形ではないと思つています。現在考えられるところの英知で最もこら辺がよからうという数字が2,600m ³ /sであるということだと思つています。ただし、先ほども途中で出てきましたように、こここのところの気候変動でかなりの豪雨等が生じております。したがって、必ずしも工事実施基本計画がそのまま続いているわけじゃなくて、変えるべきところは数値が変わっているかと思つています。	基本方針は、工事実施基本計画を後追いしているだけのものではなく、近年の気候変動を基に見直し、検証を行っている。	3110
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	ダムというのは、お金の安い、あるいは段階的にできるというものでは決してないのではないかと私は思ふ。その理由は、ダムによって、環境に対する負荷、もっと言いますと、その地域に対する負荷が当然出てくるということで、必要なときにいつでも「必要が出たらすぐにやりましょう」ということで段階的にできるものではない。基本的には、やるかやらないかというところに非常に大きな問題があるということ、やはりまず認識する必要があるのではないかと。	基本方針の目標に向けて段階的に整備していく中で、ダム建設は、環境や地域に対する負荷が大きいいため、整備するかしないかの判断が必要となる。	3111
第31回流域委員会				流域委員会での検討のスタンス	この委員会はそういう結論を出すという位置づけではないんでないかと私は思ふ。まずその辺を確認いたします。結論を出すものなんです。	流域委員会では、今後の河川整備に対して何らかの結論を出す必要性があるのか?	3112
第31回流域委員会				環境・利水 (環境)	過去にダムがいっぱいつくられて、いろんな治水の対策もなされてきたし、そういうのはあるんですけど、今私たちが原点に戻って考えなければいけないのは、それによって将来の世代にどれだけの環境を残せるかということが、最大の課題というか、私たちにいろんな知恵を絞れという形で与えられているものなんでしょうかと思ふんです。	ダムを建設した後でも将来の世代にどれだけ良い環境を残せるかを考えることが重要である。	3113
第31回流域委員会				環境・利水 (環境)	この「ある」という予測の内容ですね。具体的に言ったらどう影響が考えられるのか。その「ある」現象をやっぱり示していただきたい。私たち大野の人間は、現にダムを抱えていることで環境に直接影響を受けております。それは、ダムができてから体験したんですね。だから、そういう先例が全国各地に幾つもあるんですから、水をためないダムにするとしても、その地域特性や地質の問題もかんがみて、アセスというんじゃなくて、事前にその辺はきちっと、専門家にお聞きになれば、これぐらいの影響はあるのだというのを出せると思ふんです。やっぱり私はそれをきちっとお聞きしたい。漠然とした「あるだらう」という予測じゃないものをお聞きしたいんです。	環境影響評価を実施する場合、事前に環境への影響を予測することが重要である。ダム建設をした場合、事前にどれだけ環境への影響を考えているのか?	3114
第31回流域委員会				環境・利水 (環境)	現在わかっている科学的なことで予測できることもありますが、本当に今後10年ぐらいたって、「ああ、こんなことが起きたのか」ということが起きるかもしれません。ですから、大切なことは、事後評価というふうなモニタリングです。何が起きるかかわからないのが怖いわけで、環境問題というのは、起きたときには既に非常に広範囲に広がっているといったものから、ぜひそこら辺はきちっとモニタリングをやっていた方がいいと思ふんです。	環境への影響は、科学的に事前に予測できない事態もある。影響が出た場合、すばやい対応をするためにもモニタリングが重要となる。	3115

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第31回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第31回流域委員会				環境・利水 (環境)	環境への影響については、ある作為をすれば大なり小なり起こるわけですので、そういったもののアセスをし、そこから浮かび上がったことに対して保全をし、そして、時間の長さを考えたときの変化についてはモニタリングする。しかも、必ずそういったものを保障することを、整備計画として案の中に書き加えていただくのは必須だろうと思っております。今の時点で、法アセスの前にそういう内容を提示できない部分があって、こういうもので想像せよというのもちょっと酷な内容ではあるかと思いますが、一応そういう扱いで、整備計画には、そういうものを必ず補填するという内容を十分書き加えてもらいたいと思っております。	整備計画の中で、環境影響評価の実施、モニタリングの実施の記載をお願いしたい。	3116
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	やっぱり将来の気象の予測というのは、今までの過去を見るだけじゃだめで、どうなるのかという不安を非常に私たちは持っております。そういう点から見て、今回の管理者の意思決定した基本方針目標の流量は、十分というよりも、必ず必要じゃないかと思っております。	近年、集中豪雨が多発している現状を考えてみると、基本方針の目標流量2600m ³ /sは十分というよりも、必ず必要だと思う。	3117
第31回流域委員会				環境・利水 (環境)	命を守るために、治水上はどうしてもダムをつくらないといけないからダムをつくりますが、そのダムをつくることによってどれぐらいの環境が守られ、そして地域の文化が維持できていくのかが明確にそこに織り込まれていかないと、多分今の時代のダムではないだろうと思うんです。	命を守るためにダムをつくるが、ダムをつくった場合でもどれぐらいの環境が守られ、地域の文化が維持できていくのかが明確にすることが重要である。	3118
第31回流域委員会				環境・利水 (環境)	今は、モニタリングをしていく前に必ず仮説を立てます。仮説を立てて、こういう方向でモニタリングをするんですよ、そのときの目標はこうですよというのがあれば、その目標に達しなかったら即工事はやめなさいというのが法律で決まっているんです。法律で既に守られた範囲の中でこれから工事が進んでいくんだと思うので、そういうことを地域に住んでいらっしゃる方に監視していただいて、これはおかしいということになったら法的に制裁ができるというのが、これからつくるダムのあり方ではないかと思っております。	自然再生を行うにあたっては、仮説・目標を立て、それを検証していくためにモニタリングを実施していくことが重要。今後は、自然再生推進法の精神により工事を進めていくことがこれからのダム建設の一つのあり方と思う。	3119
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	今あるデータで考えているわけですから、150年で設計したとしても、先ほど来のように、安心できるわけじゃありません。したがって、また今後のデータを踏まえながら、いろんな方法でより安全度を高めていかないといけない。先ほどの話で言えば、規模は最小限にしながらも、色々な方法で150年のダムと同じになる方策もあるということを一つだけ申し上げておきます。	安全度については、150年に1回程度でも安心できるわけではない。被害を最小限に抑えられる対策も併せて考えることが重要である。	3120
第31回流域委員会				地域との連携 (住民意見聴取)	これからの公聴会とかいう中で、先もまだわからない部分がたくさんあるけれども、お金もかかるけれども、そうした問題をきちんと皆さんにお伝えする。また、今回やるのは長期的展望のうちの一つであって、恐らくこれを今回やっても1/30か1/40ぐらいでスタートしていくんだと思うんですね。一挙に1/150になるわけじゃありませんよね。すぐ安心になるわけじゃないんで、そういう問題も含めてわかりやすく説明していかないと、どっちだというだけでは、我々もつらいし、ぜひその努力をお願いしたい。	住民意見の聴取では、ダム建設に伴うコストや課題、長期的な展望等をきちんと住民に説明して欲しい。	3121
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	これから短時間で物すごい雨が降るんじゃないかということでした。我々が今までシミュレーションできなかった雨が降るんじゃないかとなると、さっきの話じゃないけど、2,600m ³ /sでもやっぱり足りないわということだってあり得るかなというときに、今余り決め決めでやるよりは、とりあえずというふうな発想もあっていいんじゃないかと思っております。	近年の集中豪雨を見ていると今までシミュレーションできなかった雨が降る恐れもある。2,600m ³ /sを超過する場合も考慮に入れ、柔軟な対応ができるように考えておくことが重要である。	3122
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	いわゆる整備基本方針に乗っていくすり合わせというのは二つあると思うんですね。一つには、積み木のような形でやっていくのがいいというやり方もあると思います。ただし、もう一つ逆に、将来を見越してあるレールを敷いておいて、そこで順番に仕上げていくというやり方もあります。どちらがいいかというのはありますが、その二つのやり方があると思うんです。そこら辺が、経済的に見て、あるいは治水の面からみてどちらがいいかということは、やはり管理者の方で判断していただいて、またそれを我々の方に流していただきたいと思っております。	基本方針にすり合わせていくには、積み木のような形で実施していく方法と、将来を見越してあるレールを敷いて順番に仕上げていく方法がある。経済面・治水面からみてどちらがいいかは河川管理者で判断し実施して欲しい。	3123
第31回流域委員会				治水 (河川整備)	このダムの施工にかかった場合に、いつぐらいに稼働できるんですか。大まかにお願いします。	ダムが効果を発揮する時期はいつ頃か?	3124
第31回流域委員会				流域委員会での検討のスタンス	今日は、こういった形で意見を述べさせていただきました。公約数としてこうなりましたと、ここで私の方から講じて文言を言う形には、立場上におきましても、この委員会の役割としても、言えない部分だろうと思っております。河川管理者さんにおかれましては、こういった意見を再度咀嚼、整理等をしていただいて、河川整備計画の原案を作成いただき、それをさらにこの流域委員会として審議させていただきたいと思う次第でございます。	河川管理者は、今まで流域委員会で審議してきた内容を十分に踏まえ、河川整備計画(原案)を作成していただきたい。	3125
第31回流域委員会				地域との連携 (住民意見聴取)	今回のダムのことだったら、やっぱり足羽川の福井市内というのは、もう1カ所増やしてもいいので、やっぱり直接関係の人たちがよく集まれる場所に選定した方がいいのではないかなと思います。	開催場所については、足羽川ダムの関係者の人たちがよく集まれる場所も追加した方がいいのではないかな。	3126
第31回流域委員会				地域との連携 (住民意見聴取)	やっぱり生の声を聴取できる場をより多く持った方が、私は、管理者側にも思いがまともに通じると思いますし、管理者の思いもまた住民に通じるのではないかと。一番効果的なのは、人間が顔をつき合わせてやる機会を増やすというのが一番効果的なんだと思います。実際に、河川整備計画はダムばかりじゃないし、九頭竜の支川のもありますけれども、そういうふうなもの、参加しやすい場所ですできるだけたくさんの方が参加できるような状況をつくってというのが、河川法の改正のねらいの一つでもあるんでないかなと思います。受け身じゃなくて、積極的に出ていくというところをお願いしたいと思います。	住民意見の聴取では、人と人とが顔をつき合わせて話す機会を増やすことが最も効果的である。河川管理者は積極的にそのような機会をつくっていくべき。	3127
第31回流域委員会				地域との連携 (住民意見聴取)	やはり、説明してもらわないとわからぬということも事実なんですけれども、2時間のパターンなら、割り振りをもう少し住民の方へ時間を割いて、耳の痛い話があるかもしれませんが、やはりそれも大人になって聞いてもらうということも大切じゃないかと思っておりますので、その点よろしく申し上げます。	住民意見の聴取は、住民から意見を聴く時間をできるだけ増やすように、説明時間との配分をしっかりと考えて実施して欲しい。	3128